

# 親も 学校も 地域も みんな で 子育て

弟子屈町青少年健全育成事業

ねえ、君  
毎日楽しいかい？  
感動に出会えているかい？  
ふるさとのことが好きかい？  
自分のことが好きかい？

時には  
つらいことも  
悲しいことも  
苦しいこともあるよね  
でも

君なら乗り越えられるよ  
自信を持っていいよ  
だって  
君にはすてきな力があるんだから  
必ずあるんだから

君が自分の力に気づくことができるには  
僕たち大人は  
何をしたらいいのかな  
何ができるかな



# さまざまな体験を通して 豊かでたくましい心をはぐくんではほしい

町では、青少年健全育成事業を通して、子どもたちの健全な成長のお手伝いをしています。  
将来を担う子どもたちが、心豊かでたくましく生きる力や、ふるさとを愛する心をはぐくんでくれることを願い、非日常生活体験や集団活動、さまざまな体験活動などを行っています。

## 子どもたちの豊かな成長に必要なもの

子どもの成長に必要なこと。何だか分かりますか。

- 日常生活
- 学習
- 遊び
- 運動活動
- 文化活動
- 触れ合い

ほかにもまだあるのですが、代表的なのはこの6つです。子どもの成長には、これらの総合的なバランスが必要です。

では、誰が子どもたちにこれらを提供するのでしょうか。

子どもの成長・教育の場の基本は家庭にあります。でも、すべて家庭でできるのでしょうか。それは

ちょっと無理かもしれません。では、すべて学校で？すべて地域で？これも無理ですね。

つまり、家庭と学校、地域がそれぞれ連携して、子どもたちにさまざまな体験をさせることで、豊かな成長を促すことが大切なのです。

子どもたちの豊かな成長のための地域の役割。その部分を少しでも、町教育委員会の「青少年健全育成事業」が担うことができたらと思っています。

## 子どもたちが抱える課題と町が目指す教育

現代の子どもたちの現状はどうなっているのでしょうか。

最近の子どもたちには、次のような傾向が見られます。

- コミュニケーション能力の低下。指示されないと行動できない。
- 逆境に弱い。
- 発想力に欠ける
- 好きなことにしか取り組まない。
- 計画を立てられない。
- 感動しない。感動できない。
- ストレスを抱える子どもが急増しているが、ストレスに耐える力を持つことができない。
- 自分を認めたり、自分に自信を持つたりする、自己肯定感に欠けている。

皆さんのお子さん、皆さんの周りの子どもたちはどうでしょうか。思い当たることはありませんか。

では、どうしてこのような子どもたちが増えていくのでしょうか。原因については、次のように分析しています。

- 社会の変化（不便のない生活環境など）
- 人間社会の希薄化（自己中心社会・人間関係の欠如）
- 遊び・体験環境の変化（室内型・組織化）

以上のような原因により、現代の子どもたちにはさまざまな実体験が不足していると考えられます。昔であれば、大家族や親密な近所づきあいの中で暮らし、物質的にも恵まれない分、自分でいろいろ工夫をしながら、何より自然の中で目いっぱい遊ぶことで、自然と身につ

成長につながっていったことが、現代の子どもたちには欠けているということです。

こういったさまざまな実体験、つまり子どもの成長に必要な6つについて、誰かがすべて提供できるかというと、前述したとおりそれは無理なことです。ですから、地域を担う子どもたちの成長の場をわたしたちがお手伝いできたら…。そんな思いで、町教育委員会では青少年健

全育成事業に取り組んでいます。

## 教育は地域づくり 町の未来を担う 人材を育てたい

町には「弟子屈町教育目標」といいます。それは「学校、家庭、地域社会が連携し、ふるさとを創る人を育てむ」というものです。具体的には、将来、次のような人に成長していく子どもたちを考えています。

- 体力を増進し、心身ともに健康で豊かな生活を築く人。
  - 郷土を愛し、進んでふるさとの文化を創る人。
  - 自然と調和した活力を潤いにあふれた郷土づくりにつとめる人。
  - 働くことに誇りをもち、より良い家庭や社会の建設につとめる人。
- 今、子どもたちの健全育成に努めるといことは、未来の弟子屈を担う人たちを育てていくということ。つまり、子どもたちを豊かに育てることは、イコール地域づくりだということなのです。

そう考えると「学校、家庭、地域社会が連携し、ふるさとを創る人を育てむ」と、つまり地域を担う人材を、家庭と学校、地域が協力し合って育てていくことは、当然のことだといえるかもしれません。



子どもたちを豊かにはぐくん  
でいくために必要な、さまざま  
な要素があります。

## 目標によって 青少年健全育成の 切り口もいろいろ

青少年健全育成事業では、前述した子どもたちの傾向（課題）を改善するため、次のような事業を計画・実施しています。

- 少年の主張弟子屈大会／日常生活の中で、体験したり考えたりしていることを発表することによって、住民の一員としての自覚と責任を促し、健康な心身と発表の仕方を身につける。
- てしかが冒険隊／小・中学生を対象に、非日常生活を通して、社会性や自立性、協調性、冒険心、挑戦心を養い、人に対する思いやりの心や豊かな心など、たくましく生きる力をはぐくむ活動。郷土弟子屈を知り、誇れるなど、ふるさと愛をはぐくむ活動。
- ボランティアリーダー養成講座（リーボラ隊）／中学・高校生を対象に、非日常生活体験活動や自然環境などの保護活動、社会福祉活動など、さまざまな活動に対応できるボランティアリーダーを育成する。
- Go-Go チャレンジ隊（派遣事業）／管内外で行われているさまざまな体験活動など、各種事業に参加を促し、他町村からの参加者



スタッフの事前打ち合わせ

## 将来の地域を はぐくむ活動 てしかが冒険隊

この中で、代表的で特徴的な取り組み「てしかが冒険隊」について紹介します。

皆さんは、冒険と聞いてどんなことを想像しますか？辞書によると冒険とは「危険を冒して行うこと」とあります。

てしかが冒険隊の冒険活動はそうではありません。あえて危険を冒して行う活動ではなく、子どもたちを中心に、日ごろ行わない活動に挑戦しよう。そして、その挑戦から気付いたことや発見したこと、達成したことや感動したことで、子どもたちも保護者もスタッフも、みんな成長していこうという活動です。

冒険隊の活動を通して町が目指したいことは、次の5つです。

- 健全な子どもの育成

今年度は10月と11月に、先住民族であるアイヌ民族と、北海道の名付け親である探検家・松浦武四郎について学ぶプログラムを予定しています。

もう1つのねらいが、現代の子どもたちが抱える課題の解決です。自ら計画し、実行する活動を通して、仲間と信頼関係をつくり、自分に自信を持ってほしい。そして、たくましく育ってほしいと考えています。

このねらいのもとに用意しているのが「あの町この町編」「雪中ラッセル隊」「アドベンチャーツーリング」などの活動です。町外で、しかもグループでの活動が中心となっていて、仲間を思いやり、責任を持ってやり遂げることで、自信を手に入れてもらいたいと思っています。

冒険隊の活動には、たくさんの方のスタッフがいいます。教育委員会の職員はもとより、活動を支援してくれ

- 保護者との連携
  - 学校との連携
  - 地域との連携
  - 各種団体との連携
- この活動を通して地域づくり、つまり、将来の地域をはぐくむ活動にしたいということです。お互いに成長しながら、家庭や地域の教育力の向上につなげていきたいと思っています。

## ふるさとを愛せる たくましく生きる 力を持つてほしい

てしかが冒険隊の取り組みが目指す「健全な子どもの育成」ですが、次の2つのねらいがあり、それぞれのねらいにそったプログラムがあります。

1つ目が、子どもたちに地域づくりの視点を持つてもらおうという、ふるさと教育の推進です。ふるさと愛をはぐくむ活動によって、ふるさと弟子屈の良さを知り、感じてもらう。そして、自分の言葉でふるさとのことを語ることができると子どもたちになってほしいのです。

このねらいにそった活動が「てしかが冒険隊・どっぷりふるさと編」です。町内を中心とした活動で、弟子屈を知り、好きになり、誇れるようになってもらうことが目的です。

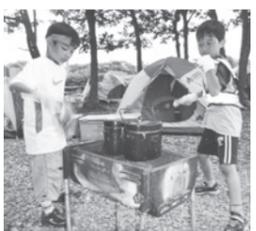
## 自転車で駆け抜け テントで7泊の 感動の冒険旅

町内外の一般のボランティアや北海道教育大学などの学生ボランティア、保護者の皆さんなど、たくさんの方が子どもたちの活動をサポートします。そして、スタッフには共通認識事項があります。それは、弟子屈の子どもたちのため、何か1つでも「気づき」をプレゼントするということです。教育の現場であるということを大前提に、安全管理を徹底するのはもちろん、子どもたちの成長の糧となる「気づき」をプレゼントしたい。そう願ひ、努力しています。

## 冒険隊の活動の中でも、最も特徴的だと言えるのが、たくましい子どもをはぐくむ活動「アドベンチャーツーリング」です。

目指すのは「挑戦！限界！達成！感動！の旅」。7泊8日の日程でテント泊しながら、自転車でゴールを目指すというもので、今年で3回目。過去最高となる23人が挑戦し、これまた過去最高となる400キロを走破しました。

活動は、ツーリング期間中だけではありません。何度も事前学習を重ね、自転車やテント設営の練習はも



あえて危険を冒すのではなく、食事の準備やテント設営、炭起こしなど、日ごろなかなか行わないことに挑戦していくのが、てしかが冒険隊の活動です。  
(写真/今年のアドベンチャーツーリングから)



多くの人でにぎわった虹のわマーケット

## 家庭や地域が お互いに連携して 子どもをはぐくむ

もちろん、活動中のグループ分けや活動の場所、内容、泊まる場所、食事、遊びや体験の計画、予算、目標まで、すべて子どもたちが自ら計画し、実施します。

こういった活動は全国的にも珍しいものです。

今回は、8月6日に公民館前を出発。例年になく暑さとの戦いの中、さまざまな体験を重ねながら、厚岸町、根室市、浜中町、標茶町、釧路市、鶴居村を駆け抜け、13日に公民館前で感動のゴールを迎えました。

12月には、写真や映像を見ながらの振り返り活動を行います。

## アドベンチャーツーリングは、保護者の皆さんからの支持や評価が高い事業です。

もちろん、参加には子どもたちの希望や意志が最優先されますが、保護者の皆さんからの理解や承諾も欠かせません。一度参加させてみると、子どもたちの成長ぶりに驚き、来年ももう一度参加させたいと思ってくださるようです。実際、3年連続で参加している子どもたちもいます。

そのような中、冒険隊の活動を支

援しようという動きも現れました。代表的なものが、6月に行われた「虹のわマーケット」(同実行委員会主催)です。子育て真っ最中のお母さんたちが中心となって開催したフリーマーケットですが、楽しいだけではなく社会の役に立つイベントにと、フリーマーケット出店料の半額を寄付するというものでした。実行委員会が選んだ寄付先は3つあり、その中の1つが「青少年健全育成事業」てしかが冒険隊でした。

実行委員のお母さんの中には、わが子が冒険隊で活動しているという方もいます。そういったことから、自然に支援の輪は広がっていったようです。

また、アドベンチャーツーリングの活動中、サポートスタッフとして自転車で行ったお父さんやお母さんも。家庭と地域が連携した教育が、形になってきています。



町教育委員会  
社会教育主事  
奥村 利之

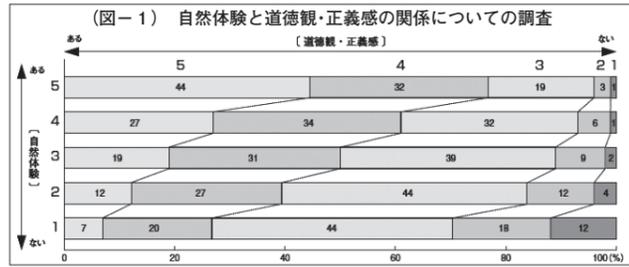
## 人間力を兼ね備えた大人へ そして地域づくりへ

「今年の冒険隊は、いつあるのっ」「アドベンチャーツーリングはどこのっ」と街角で声をかけられるようになりました。

昨年からは、未来子ども協議会と連携協力して実施しているほか、今年3月に開催された「女性のついで」で、活動を紹介させていただいたり、活動も7年目の継続で、地域の方々が楽しみにしてくれる活動になっているのかなと感じています。

また、保護者の方々や地域の方々から「アドベンチャー」の活動支援のため「虹のわマーケット」の開催を通して支援を呼びかけたり、お父さん、お母さんが仕事の休みを利用して、スタッフで参加してくれたりと変化が見られ、冒険隊の活動が少しずつですが、地域をはぐくむ活動に近づいていることが感じられます。

さて、青少年担当者が集う研修会などでは、子どもたちの状況などが話題となります。その中で必ず話題の中心になるのが「コミュニケーション能力の低下」や「自己肯定感の低下」です。冒険隊の活動を通して、子どもたちが抱える課題解決を目指して取り組んでいるのですが、町内の子どもたちすべてに行き渡るものではありません。



ある講演会では「子どもたちが大人になる成長の過程で『何を学習』し『何を体験』して『何を学ぶ』『何を身につける』か」と、さまざまな体験の積み重ねによって人間力に差がつく。現代の子どもたちは、コミュニケーション能力の低下や自己肯定感の低下などが課題となっている。原因としては社会環境の変化に伴い、さまざまな実体験や経験が少なくなっているため、心や体が育っていないとの指摘でした。

また「自然体験と道徳観・正義感の関係」についての調査(図-1) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 平成17年度調査)では、自然体験の多い小学生には、道徳観や正義感が身に付いている子が多い傾向であると調査報告されており、子どもの成長には体験活動が必要不可欠であると言えると思います。

この子どもたちを取り巻く課題については、家庭で、地域で、学校で、子どもたちの教育に携わる者が、それぞれ、時には連携しながら取り組まなければならない状況にあります。

5月中旬から取り組み始め、8月6日から13日までの7泊8日の日程で行った、アドベンチャーツーリングでは、主催者(町教委)からの提示もありましたが、活動するグループ分け、ツーリングコース体験活動、食事の計画や買い物など、子どもたちが主体で旅をする活動です。

8月6日に公民館前を、朝から30℃を超す猛暑の中スタートし、自転車を走らせ心地良い風はすが熱風で、進むのは水ばかり。上り坂に差し掛かると思うように進まず、涙を流しながらでもペダルを踏む。一面に広がった太平洋に感動し、砂浜を馬に乗って散歩した。昆布しか釣れなかった海釣り浜辺は涼しく気持ちよかった海釣りキャンプ場へ到着すると霧の中で寒く、風邪をひくかと思いました。

塘路湖まで80kmのチャレンジャーを頑張って走り抜き、翌日は力を合わせて釧路川を下り、釧路湿原を満喫した。みんなで風呂に入って、食事の後に、お母さん、お父さんから手紙が届き、必死に読み返していました。テントの中では「お母さんに会いたくなっ」と涙する冒険小僧も…。

阿寒湖では遊覧船に乗って、マリモを見た。阿寒湖を満喫した。

鶴居村へ移動中、雨が降ってもカッパを着て自転車で懸命に走った。その夜は、みんなで作ったハイキングがおいしく最高だった。

弟子屈町に戻ってきて、みんなでアイスを食べながら雨宿りしていたら、ゴールを出迎えてくれたかのように、虹が現れ、すくきれいでした。公民館前では、お父さん、お母さんたちが出迎えてくれ、みんなそろって笑顔のゴールをしました。

8月13日にゴールした子どもたちは、楽しかったことよりも、つらかった思い出が多いことでしょう。日常、不便さを感じない生活から一転して、頼る親もない。まして、コミュニケーションを取る事が苦手な子どもたち同士が、1週間以上も移動しながら共に生活するわけですから、つらさを感じるのは無理もないことだと思います。しかし、子どもたちは時間をかけてツーリングの1週間を思い出すとき、少しずつですが、ためになったことや発見したことなどの経験や仲間との思い出が、ポツリ、ポツリとよみがえってきます。

「仲間と共に頑張ったこと」  
「一緒に食事を作って食べたこと」  
「たくさんけんかしたこと」  
「つらくて、さびしくて、涙したとき、仲間が励ましてくれたこと」  
などの経験が積み重なることで「仲間との信頼関係」や「自分自身に自信を持つこと」がはぐくまれていくのではないかと、活動を通して感じます。そして、チョッピリですが、人間らしい大人へと成長する要素が積み重なり「人間力を兼ね備えた大人」へ成長してくれることを願います。

冒険隊の活動を通して成長しているのは、子どもたちばかりではありません。スタッフ(大人)や保護者など、携わる者すべての人々に「気づき」があり、それぞれ成長し、家庭や地域で生かされ、地域づくりの原動力となっています。

ですが冒険隊の活動がコソコソと地道に継続し、現代の子どもたちが大人に成長したときに、次代の子どもたちに引き継いでいける。そんな活動になるといいですね。

## 冒険隊を通して わたしが思う

## 健やかなはぐくみのエッセンス

親として  
地域として



虹のわマーケット  
実行委員  
木名瀬 佐奈枝 さん

冒険隊の活動には、息子が5年間、ほぼすべてのプログラムに参加しています。アドベンチャーツーリングにも、3年連続で参加しました。学校を通して案内のチラシが来ると大喜びで、楽しみにしている様子が分かります。

子どもの成長ですから、劇的な変化はなかなか見えませんが、冒険隊の活動を通して「生きる力」がついてきたというところを、日常の折々に感じます。それは、子どもたちの自主性を尊重した、子どもたち同士の活動の中ではぐくまれたものだと思います。教育委員会の方たちがこういった事業を企画し、子どもたちを連れていってくださることに、本当に感謝しています。

この事業は、町の誇りだと思いますし、親としてこれからも支援していきたいです。また、地域の方にこの素晴らしい事業を知って、支えてほしいとも思っています。その思いが「虹のわマーケット」のコンセプトにつながりました。冒険隊の活動が今後も長く続いていくことを、心から願っています。

親として  
地域として



虹のわマーケット  
実行委員  
辻谷 文 さん

娘がアドベンチャーツーリングに、昨年と今年と参加しました。昨年は参加後の変化はあまり感じられなかったのですが、今年には目に見えて成長しました。小さい子に優しくしたり、買い物などをしてくれたり、いろいろなことを自然と自分からするようになりました。

冒険隊の活動で得られるような体験を、親が子どもにも与えられるかという難しいと思います。親ではない地域の大人とかかわって活動するというのが、いいのだとも思います。また、娘は少人数校に通っているのですが、いろいろな面で行き届いている半面、周囲にもまれる経験や、たくさんの人とのコミュニケーションの機会に欠けているとも感じています。そういった意味でも、冒険隊への参加は意義があると思っています。

娘にはふるさとを好きになってほしいと思っています。娘が大人になってふるさとを思うとき、冒険隊は誇りであり、活動で得たものは宝物になっているはず。この事業が長く続くよう、応援していきます。

親として  
サポート  
スタッフとして



アドベンチャーツーリング  
サポートスタッフ  
片桐 静 さん

アドベンチャーツーリング8日間のうち、最初の3日間と最後の1日、サポートスタッフとして同行しました。

シヨートツーリングで、屈斜路まで自転車で走ったときも同行しましたが、そのころから比べると、ツーリング後半には目に見えて子どもたちが成長しているのが分かりました。ぼんやりしては進まないと気づき、自分からやることを見つけて取り組むといった責任感が出てきていました。

娘も、冒険隊の一員としてツーリングに参加しましたが、参加前と比べると精神的にも体力的にもたくましくなりましたし、自分でできることは自分でするようになったと感じます。簡単な料理に挑戦したり、車に乗って出かけるのが当然だったのに自転車が出かけたりしていますね。

冒険隊の取り組みは素晴らしいと思っています。何より楽しいですし、より多くの子どもたちに参加してもらって、いろいろな経験をしてほしいと思います。

学校として



弟子屈小学校  
伊藤 新一 校長

教育とは、目に見えた成果がすぐに出るものではありません。子どもたちが大人になり「あの学校でよかったな」「あの先生でよかったな」と思ってくれたとき、そして大人になった子どもたちが地域に戻り、学んできたことを自分の子どもに伝えられたときに、教育が実を結んだといえるのかもしれない。「一生懸命に頑張ること」「学びを活用する力」「周囲とかかわっていく力」を身につけてほしい。私たち教員は、そんな思いで日々子どもたちと向き合っています。

横の集団での活動が中心の学校に対して、教育委員会の青少年健全育成事業は縦の集団での活動を中心とした、未知なるものへの挑戦です。こうした学校では味わえない体験を通して、子どもたちは自分自身の心にチャレンジしているのだと思います。人には話さなくても自分自身の中で満足感や成就感があり、次の意欲へとつながっていく、素晴らしい活動だと思っています。進んで参加する子どもたちを褒めたいと思います。



海辺でホーストレッキング(8/8浜中町)



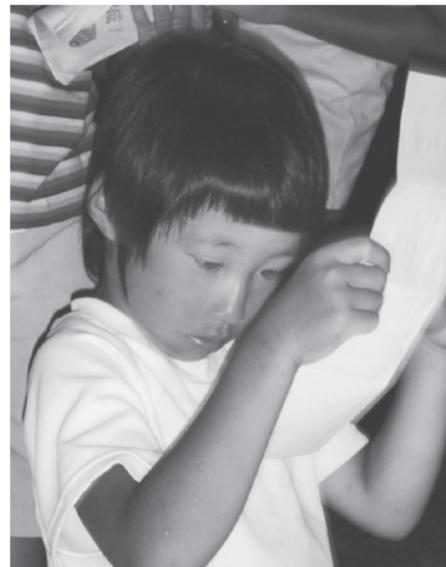
海釣りに挑戦(8/8浜中町)



朝食が元気な一日の鍵(8/8根室市厚床伊藤牧場キャンプ場)



海ってきれいだねえ、大きいねえ



旅先に届いた家族からの手紙にあふれるものは…(8/10)



暑さの次は土砂降りの雨(8/12)



暑い 熱い

# 冒険小僧たちが駆け抜けた夏

てしかが冒険隊アドベンチャーツーリング2010は、8月6日～13日の7泊8日の日程で、釧路・根室管内を舞台に行われました。小学校1年生～中学校2年生23人が、さまざまな体験を重ねながら、400キロを自転車で走破。真っ黒に日焼けしてたどりついたゴールで、勝どきを上げました。旅の様子を写真で振り返ります。



少し寂しくなってしまった仲間を元気づける(8/9)



今日は浜中町から標茶町まで80km走るチャレンジデー(8/9)



釧路市動物園でかわいい動物たちと触れ合う(8/11)



塘路湖から岩保木水門までの釧路川下り(8/10)



阿寒湖では遊覧船にも乗船(8/12)



豪雨に見舞われやむなく車へ…そして爆睡(8/12)



最後の夕食はみんなで作った豪華バイキング(8/12鶴居村)

お父さんやお母さんが出迎える中、感動のゴール(8/13)



2日目も快調(8/7)



上り坂が少さきつい



見送りと声援を受けて元気に出発(8/6)



連日猛暑との戦い(上)だから冷水が心地いい(左)



初日の目的地は厚岸町



サポートスタッフに見守られながら



狩野 悠君  
弟子屈小5年

1日で80kmを走るチャレンジデーは、特に坂道がつかったけど、走り切ることができてうれしかったです。カヌーや乗馬や海釣りなど楽しいことも多くて、また参加したいです。



昭栄小6年  
更科 宏記君

みんなで一緒にお風呂に入ったことが良かったです。料理は、ほとんどが失敗で残念でした。アドベンチャーツーリングの間は、1日1日が達成感でいっぱい、参加してよかったと思いました。



和琴小6年  
野下 ちはるさん

小学生最後のアドベンチャーツーリングでした。自転車で走るのは暑くてとても大変だったけれど、楽しく走ることができました。毎年挑戦することができて、よかったと思います。



奥春別小6年  
原 朱里さん

自転車で走るのが楽しかったです。坂道はつかったけど、最後まで頑張りました。アドベンチャーツーリングには3年連続で参加していますが、今年はとても暑かったです。



弟子屈小6年  
木名瀬 道人君

ボートでの川下りが楽しかったです。上り坂はきつかったけど、頑張りました。アドベンチャーツーリングにまた参加するかは分からないけど、もっといろいろな活動を取り入れてほしいと思います。

## 400kmを 駆け抜けた 冒険小僧たち

今年で3回目となった「てしかが冒険隊アドベンチャーツーリング2010」には、23人の冒険小僧たちが挑戦。400キロを走り抜いた感想を聞いてみました。



弟子屈小3年  
小杉山 遥月さん

寒い中での炊事がつかったけど、乗馬など楽しいこともたくさんありました。アドベンチャーツーリングには去年から参加したいと思っていて、今年参加できてよかったです。また参加したいです。



弟子屈小3年  
築地 郁弥君

自転車で走るのは大変だったけど、頑張りました。楽しかったのは、馬に乗ったことです。できれば、また馬に乗りたいです。あまり楽しくなかったのは、釣りで、何も釣れなかったからです。



弟子屈小4年  
寺田 安那さん

川下りのとき、ボートで水を掛け合っただけが楽しかったです。全然釣れなかったので、釣りはあまり楽しくありませんでした。仲間とのけんかもあったけど、とても楽しかったので、また参加したいです。



弟子屈小4年  
築地 朱里さん

乗馬体験が楽しかったです。もう一度、馬に乗りたいです。ほとんど釣れなかったので、釣りはあまり楽しくありませんでした。暑い中、頑張って自転車で走ることができてよかったです。



弟子屈小4年  
小濱 亜夢花さん

みんなと一緒に料理や自転車体験をして、新しい友達もできて、うれしかったし楽しかったです。一英語指導助手のチームにも英語を教わってもらって、うれしかったです。面白かったから、また行きたいです。



弟子屈小4年  
片桐 春野さん

アドベンチャーツーリングで、初めて自転車で長い距離を走って楽しかったです。時間いっぱいになって、途中で車で回収されたのが悔しかったので、今度はもっと早く走りたいです。



奥春別小2年  
阪口 羽和さん

ご飯を作ることがとても楽しかったです。暑い中、自転車で坂道を上ることはとても大変でした。大変なことも、つらいこともあったけど、アドベンチャーツーリングは楽しかったです。



奥春別小2年  
守屋 陽平君

自転車で坂道を上るのがつかったし、晩ご飯を作るのが難しかったけど、頑張りました。活動の中では、動物園に行ったのが楽しかったです。また、アドベンチャーツーリングに参加したいです。



奥春別小2年  
有園 岳馬君

自分たちでご飯を作ったことが楽しかったです。あと、活動を通して地図を読むようになったことがよかったと思います。坂道を上るのはとてもつかったけど、頑張ってよかったと思いました。



弟子屈小2年  
狩野 凜華さん

釣りをしても釣れなかったのが残念だったけど、乗馬はとても楽しかったです。あと、旅先にお母さんからお手紙が届いて、とてもうれしかったです。だから頑張ることができたと思います。



弟子屈小2年  
小濱 裕哉君

アドベンチャーツーリングは2回目だったけど、グループで協力するところが楽しかったです。上り道がつかなくて、釣りができなかったのが残念だったけど、また参加したいです。



弟子屈小2年  
小濱 朋哉君

カレーを作りました。ニンジンが硬かったけど、楽しかったです。坂道や雨がつかなくて、仲間がけんがをしているのはいやでした。サポートスタッフのみんなとは、ずっと一緒にいたかったです。



サブリーダー  
弟子屈中1年  
西端 祐樹君

昨年に引き続き、今年で2回目のアドベンチャーツーリングでした。今年はサブリーダーとしての役割もあって大変でしたが、楽しいツーリングでした。みんなで無事にゴールできてよかったです。



サブリーダー  
弟子屈中2年  
大関 祐樹君

今回、初めてアドベンチャーツーリングに参加しました。毎日とても暑くて大変だったけど、いろいろな体験ができました。特に、やっぱり自転車で走るのが楽しかったです。



サブリーダー  
弟子屈中2年  
東直人君

自転車で走るのが楽しかったです。長い距離を走るのはつらくも楽しかったのですが、今年はとても暑くて、それが一番大変でした。アドベンチャーツーリングには、また参加したいと思っています。



弟子屈小1年  
澁谷 創磨君

阿寒湖で遊覧船に乗ったことが、一番楽しかったです。友達や、一緒に来てくれた英語指導助手のチームさんともたくさん話をしました。つかったことは何もありません。また、参加したいです。



弟子屈小1年  
草間 涼太君

すごく暑くて、自転車に乗るのがいやになったけど、一生懸命頑張りました。寂しくなったとき、みんな優しくしてくれてうれしかったし、励まされました。参加してよかったです。



奥春別小2年  
辻谷 麦さん

海釣りや乗馬が楽しかったです。つかったのは、自転車で坂道を上ることです。アドベンチャーツーリングにまた参加するかは、まだ分からないけど、次は水族館にも行ってみたいです。



弟子屈町青少年健全育成事業

□問い合わせ先/町教育委員会社会教育課社会教育係 ☎ 4 8 2 - 2 9 4 8 (課直通)

何となく  
分かったことがあるんだ

みんなで協力し合って何かをするって  
とっても楽しい

自分で考えて行動するって大変だけど  
やり遂げたときはとても気持ちがいい

普段あまりしないこと  
あまり見慣れない景色  
頑張ろうとする気持ち  
仲間を思いやる心

そんないろいろなことが  
大切なことを気づかせてくれたんだ

ぼく  
また挑戦してみたいな

もつともつと

いろいろなことを体験してみたいな  
世の中には

知ろうとしなければ分からない  
すてきなことがたくさんあるんだね

きっかけをありがとう

さまざまなドラマがあったことでしょう

子どもたちみんなが「楽しかった」と言って  
公民館へ戻ってくる姿はとても印象的でした

今しかできない経験をさせてあげたかった

「来年はもう行かない！」  
と言っている半面  
思い出を話すときは  
楽しそうなことがほとんど

毎年、参加するたびに、少しずつ成長していくのが見えました

事業を末永く継続してほしい

たくましい弟子屈っこを育てていけると信じています

子ども時代にこういう体験ができるということが素晴らしい

この事業は町の誇りです

本人はまた参加したいとやる気満々です

何かをやり遂げる達成感を

親主導ではなく

本人自身に味わってもらいたい

子どもにとってはよい経験だと思っている

ゴールした後はとっても自信に満ちあふれていました

多分、家庭では見せない姿で活動しているんだらうなあ